

市域のブロック(エリア)分けの候補案について【グループ協議】

1 第4回審議会(3/18)のグループ協議の結果

「市域全体をいくつかのブロック(エリア)に分けるとしたら、どのようなブロック分けが考えられるか。」をテーマに、3つのグループに分かれ協議いただいた。グループ協議の結果は以下のとおり。

グループ	グループ協議で出た意見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・①北川辺、②大利根と加須北中学校区、③東武伊勢崎線の北、④騎西を含む東武伊勢崎線の南の4ブロック ・再編による子どもたちへの影響を最小限にすべきではないか。 ・現状に捉われず未来を見て、よりよい教育環境を目指し再編すべき。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・①北部、②中部、③南部の3ブロック ・①北川辺と大利根、②③加須で2ブロック、④騎西の合計4ブロック ・現在の中学校区を生かした8ブロック ・加須市が目指すまちづくりの方向性が見えないと議論が難しい。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・加須、騎西、北川辺、大利根といった地域性を優先すべきではないか。 ・利根川や鉄道といった地理的特性の観点も重要ではないか。 ・児童生徒数の推移を中心とした数合わせの議論では、現在の小学校区と違ったものとなる可能性があり、難しいのではないか。 ・ <p>現在の状況が続くものではないので20年後を見据えるのは難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区をベースに学校形態の検討も必要だろう。また、再編を進めるに当たっては優先地区の検討も必要ではないか。

2 ブロック分け候補案

- ・ブロック(エリア)分けの最少単位を「小学校区」を前提に、第4回審議会のグループ協議の結果を踏まえ、4つの候補案(図1～図4)を整理した。
- ・なお、ブロック分けは、優先順位を整理するために行うものであり、同一ブロック内の学校を一つに統合することを前提としたものではない。

3 本日のグループ協議の内容

協議内容 以下の視点a～cをもとに、4つの候補案のうち、望ましいと思う候補案はどれか。

視点a 「子どもたちへの影響」

⇒通学距離や通学区域の連続性、学習環境の変化など子どもたちへ影響

視点b 「地域性、地域コミュニティとの結びつき」

⇒生活圏のまとまり、自治会単位など地理的・歴史的なつながり

視点c 「学校の持続可能性」

⇒20年後も存続し続ける学校配置など、長期的な視点による持続可能性

- ・再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など、ブロックごとに学校再編の具体について審議するのは次回以降となりますが、まずはa～cの視点をもとに考えた場合、望ましいと思う候補案はどれか。そう考える理由も含め、グループで話し合いをお願いします。

【グループ協議】

【手順1】アイスブレイク（目安5分）

- ・グループ協議に入る前に、場の雰囲気や和ませる意味で、まずは新年度を迎え思うことや気になる出来事などを交えながら、自己紹介し合ひましょう。

【手順2】自分の考えを整理（目安5分）

- ・視点[a]～[c]それぞれを基本に考えた場合、望ましいと思う候補案はどれか。そう考える理由も含め、自分の考えを整理しましょう。

視点	望ましいと思う候補案	そう考える理由
<a>[a] 子どもたちへの影響		
<a>[b] 地域性、地域コミュニティとの結びつき		
<a>[c] 学校の持続可能性		

【手順3】グループ内でそれぞれの考えを発表・まとめ（目安30分）

- ・グループ内でそれぞれの考えを発表し、望ましいと思う候補案はどれか。そう考える理由も含め、グループの意見としてまとめましょう。

視点	望ましいと思う候補案	そう考える理由
<a>[a] 子どもたちへの影響		
<a>[b] 地域性、地域コミュニティとの結びつき		
<a>[c] 学校の持続可能性		

【手順4】グループごとに発表（各3分）